



医療法人社団 仁恵会

石井病院

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

Now

Vol.203

- Since 2008

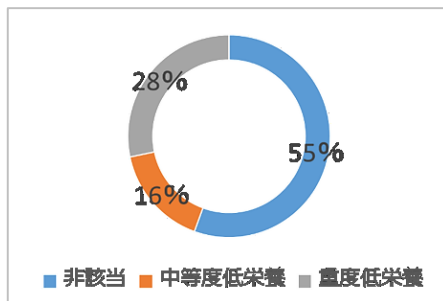
JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2025.2

第28回日本病態栄養学会年次学術集会 発表について

『当院におけるGLIM基準の筋肉量減少の検討』と題して、1月19日に国立京都国際会館で開催されました日本病態栄養学会にて発表を行いました。

GLIM (Global Leadership Initiative on Malnutrition) 基準とは、2018年に初めて世界基準で提案された低栄養の診断基準です。当院では2024年7月からこのGLIM基準を導入し、多職種で栄養評価を実施しています。今回の調査で、当院に入院された患者さんの約4割が低栄養に該当していることが分かりました。(※図1参照)



2024年7月から10月までに入院された患者さんのGLIM基準による栄養評価 (図1)



栄養課 主任
中司 安里

この結果をもとに、当院ではさらなる低栄養対策の強化が必要であると考えられます。本学会での発表を通じて、他施設の取り組みを知ることができ、非常に有意義な機会となりました。特に、GLIM基準の運用における課題や、より効果的な評価方法についての議論が活発に行われていた点が印象的でした。今後は、低栄養患者さんへのアプローチをさらに充実させるため、評価指標の見直しや、多職種との連携強化を進めていきたいと考えています。今回の学会発表を通じて得られた知見を活かし、より質の高い栄養管理を提供できるよう、引き続き努めてまいります。

最後になりましたが、GLIM基準の運用にご協力頂いている職員の皆様に厚く御礼申し上げます。



(学会会場)

石井病院 ～ 新任医師のご紹介 ～

大賀 成敏 (おおが しげとし) 医師

診療担当：内科 診察担当：毎週 月曜日・水曜日 午前診療

2月3日より、明石市天文町「大賀医院」(2025年1月末閉院)院長として長きにわたり地域医療に貢献しておられた大賀成敏医師が当院に着任されました。

今後は石井病院の一員として、外来診療(内科)に携わっていただきます。

当院では、様々な症状や訴えをお持ちの患者様に各診療科と協力して適切なアドバイスを行い、安心して治療を受けていただけるよう、今後も診療体制の充実に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



医師
大賀 成敏

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック ～ 新任医師のご紹介 ～

久保 充 (くぼ みつる) 医師

診療担当：内科(人工透析) 診察担当：毎週 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日

1月より久保充医師が着任され、常勤医が2名体制となり、充実した診療体制をとることができるようになりました。透析センターとして石井病院と連携しながら、患者様へ寄り添った思いやりのある診療を提供してまいります。





～ わが国の慢性透析療法の現況（2023年12月31日時点）について ～

透析治療を受けられている皆様へ、日本の透析医療の最新状況についてお伝えします。

透析患者数の推移：

2023年末時点で、日本の透析患者数は343,508人となりました。ここ数年、患者数の増加ペースが緩やかになり、2022年から2023年にかけては若干の減少が見られています。

透析患者の現状：平均年齢：70.09歳

最も多い原因疾患：糖尿病性腎症（39.5%）

透析導入患者の状況：

2023年の新規透析導入患者数は38,764人でした。導入患者の平均年齢は71.59歳で、原因疾患の第1位は糖尿病性腎症（38.3%）となっています。

治療方法の内訳：

血液透析濾過（HDF）：203,113人（全体の59.1%）

腹膜透析（PD）：10,585人

在宅血液透析：799人

今後の展望：人口の高齢化に伴い、透析患者数は今後も一定数を維持すると予想されます。しかし、慢性腎臓病（CKD）対策の効果により、年齢調整後の透析導入率は低下傾向にあります。

慢性腎臓病（CKD）対策の効果：2008年頃から開始されたCKD対策の効果が現れていると考えられます。年齢調整後の透析導入率が低下傾向にあることから、CKD対策が透析導入患者数の減少に寄与していると推測されます。

原疾患の変化と予防医療の進歩：

糖尿病性腎症の減少：新規透析導入患者の原因疾患として最も多い糖尿病性腎症が減少傾向にあります。これは糖尿病の早期発見と治療の改善によるものと考えられます。

慢性糸球体腎炎の減少：かつて最多であった慢性糸球体腎炎による新規導入患者が減少しています。これは腎炎の早期発見と治療法の進歩によるものと推測されます。

保存期腎不全治療の進歩：CKDの進行を抑制する治療法の改善により、透析導入を遅らせることが可能になっています。

これには以下のような要因が含まれます：

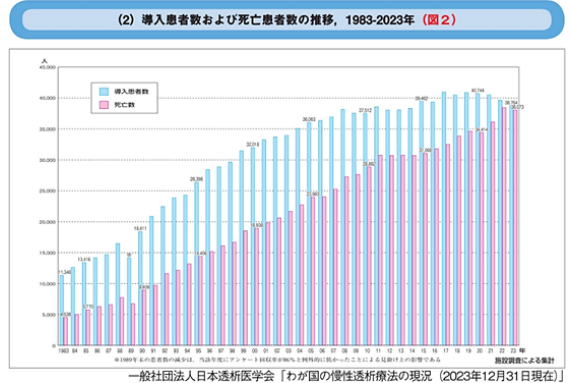
早期発見・早期治療例の増加、CKD治療中断例の減少、生活習慣の改善

人口動態の変化：

65歳未満の患者数が2012年から、70歳未満の患者数が2017年から減少しています。これは若年層での新規透析導入が減少していることを示唆しており、予防医療の効果が表れていると考えられます。

以上の要因が複合的に作用し、透析導入患者数の減少につながっていると考えられます。ただし、人口高齢化の影響は大きく、今後も継続的なCKD対策と予防医療の推進が必要だと考えられます。

以上のような事を毎年全国の透析施設が協力して情報提供しながら、患者様の延命・QOL改善を目指しデータを共有しどのような治療を目指すべきかを検討しております。皆様が仁恵会透析センターを選んでいただき、当院での透析を行っている中で最新のデータを元に患者様に貢献するべく「仁＝思いやり」の理念に基づいた医療を提供するため、これからも「透析ならじんけい」を合言葉に地域の患者様に寄り添った医療を提供してまいります。



■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00～12:00 14:00～17:00
土曜 9:00～12:00
担当 井口 土谷 上野 森

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<https://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>